

# ちいきの大学

2011  
夏  
01

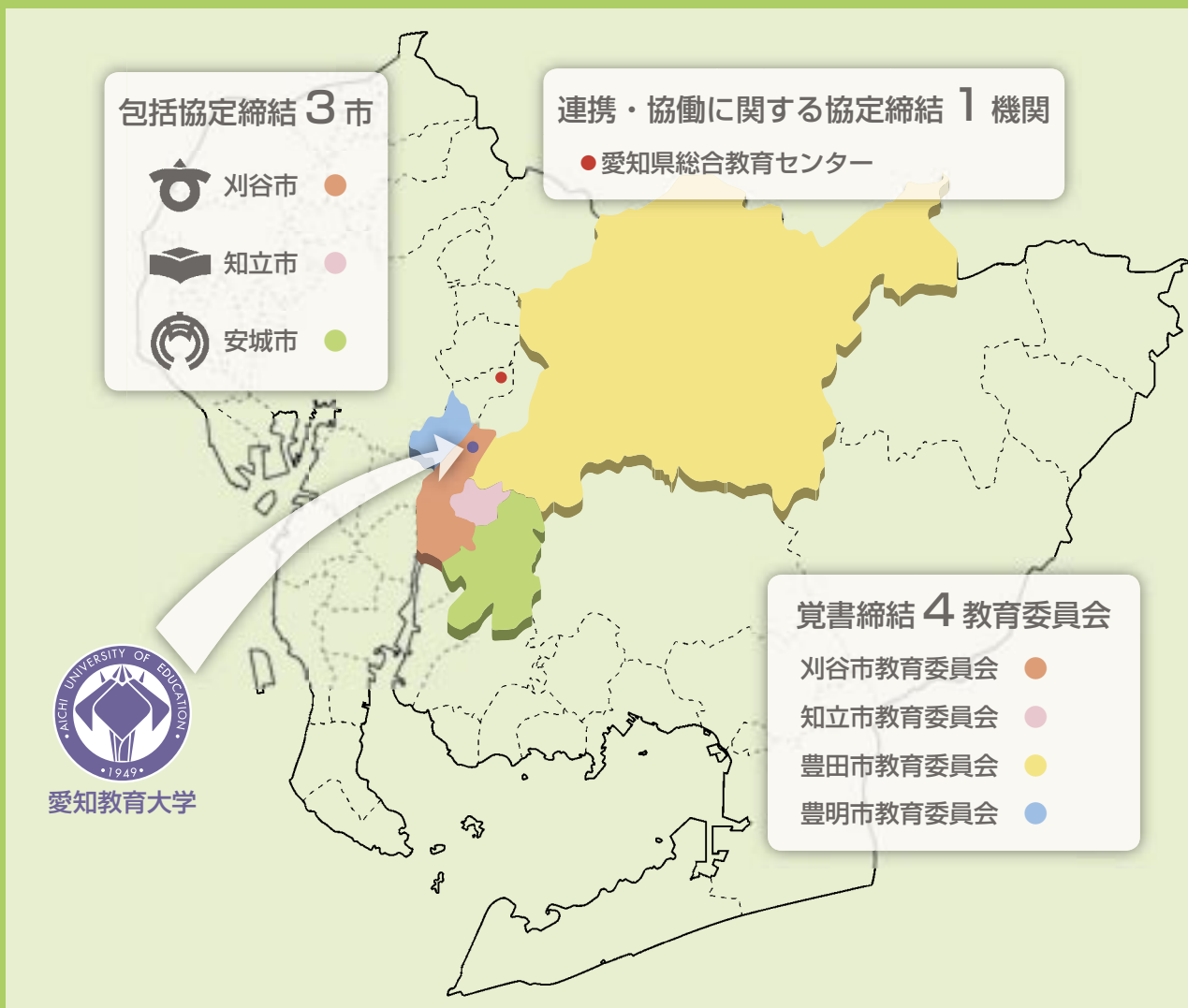
## Contents

- ・ 包括協定の推進 — 知立市議団来学 — ・ 地域連携会議
- ・ 愛知県教育関係者懇談会 ・ 企業との連携
- ・ リソースルームから ・ Q & A ・ Information



愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。

<http://www.aichi-edu.ac.jp>



## ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 都築 繁幸

愛知教育大学の近隣にある小堤西池は、カキツバタが群生していることで有名です。本学のシンボルマークは、「カキツバタ（杜若）」です。カキツバタは、古くから日本人に愛され、万葉集や伊勢物語にも取り上げられています。カキツバタの花言葉は「幸運」、「幸運がくる」とされています。

1873年に愛知県養成学校として設立された本学は、1949年の新学制制度の発足に伴い、愛知学芸大学として設置され、1966年に愛知教育大学に改称し、1970年4月に刈谷に統合移転しました。シンボルマークの「1949」は、愛知学芸大学として設置された年を示しています。

本学は、知の継承、知の創造、知の貢献の拠点として、地域から愛され、地域から信頼される「ちいきの大学」をめざします。皆様とともに「幸運を呼ぶカキツバタ」を大きく育てていきましょう。

## 包括協定の推進 — 知立市議団来学 —

知立市と愛知教育大学は、2010年12月17日に包括協定を締結している。この協定の目的は、教育研究、生涯学習、文化、スポーツ、地域産業、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することである。

目的達成のために、坂田議長、佐藤修副議長をはじめ、市議22名と議会事務局長ら職員3名の合計25名が、5月30日に愛知教育大学を視察した。都築学生・連携担当理事は、冒頭の挨拶の中で「知立駅は本学への玄関になっており、様々な面で学生、教職員が知立市にお世話になっています。本学の様子を知っていたら、今後、一層の交流や連携の充実・発展に繋がれることを期待しています。」と地域連携の強化を強調した。坂田議長は「知立市と愛知教育大学が昨年12月に包括協定を結び、ようやく大学を訪問できてうれしく思います。人的、知的交流をしっかりと深め、協定の意義を高めたい。知立よいとこ祭りに学生のお知恵を借りるとともに、参加もお願いしたい。」と期待を述べた。情報交換、懇談の後、学内施設を視察した。

### ■ 教員採用率は？

教員養成課程では臨時教員も含め、80%前後が教員として就職している。現代学芸課程では、教員・公務員が30%、進学が10%前後、企業への就職が50%である。教員として就職する者はほとんどが地元の先生になっている。

### ■ 地域連携に関しては？

外国人児童生徒の学習支援は本年度も継続している。

### ■ 地域連携で市街地活性化に愛教大が協力している。考え方は？

美術教育講座の先生が刈谷市の商店街の人たちと連携して進めている。刈谷・知立・安城の各市とは包括協定を結んでいる。作品展などについて知立市から要請があれば、企画に参加できる。

### ■ 附属学校はいくつ？

岡崎地区に小・中・特別支援学校、名古屋地区に幼・小・中、刈谷地区（大学内）に高校があり、あわせて7校園ある。

現在、包括協定を締結している市は、知立市の他に、刈谷市、安城市の計3市である。自治体を対象にしている包括協定とは別に、覚書を締結している教育委員会は4市（刈谷、知立、豊田、豊明）である。愛知県総合教育センターとは、連携・協働に関する協定を締結している。



## 外国人児童生徒のための学習支援事業に関する地域連携会議

### 外国人児童生徒を軸とした多文化共生社会をめざす教育支援の構築事業

5月27日、愛知教育大学の教職員・院生28名と4市（刈谷市、知立市、豊田市、豊明市）教育委員会担当者・11小中学校指導者15名が、「外国人児童生徒を軸とした多文化共生社会をめざす教育支援の構築事業」（文科省特別教育研究経費）を円滑に且つ友好に推進するために、本学において連携会議を開催した。



教員代表の中田敏夫教授・上田崇仁准教授から本年度の事業計画が説明された。学生派遣や教材開発の事業は継続するとともに、新規事業として、幼稚園・保育園・高校との連携が提案された。これにより、外国人児童生徒の幼保から高校までの一貫した教育支援の道筋が構築されることになった。本事業を支援している学生派遣状況は、次の通りである。

● ボランティア登録者数は、学部生・大学院生合わせて210名である。

● 4市小中23校に個別支援として学生49名を派遣し、64名の児童生徒への支援を行っている。

昨年度は、23校に64名を派遣し、76名の児童生徒へ支援を行った。

◆ 豊明市で実施している文科省委託「虹の架け橋教室」事業「プラスエデュケート」を他市においても実施してほしい要望が出された。

「プラスエデュケート」は子どもたちはもちろん保護者にも、子どもと一緒に学ぶことができると大変好評である。しかし、「プラスエデュケート」に出かけられない、本当の意味で支援が必要な子どもが各市に多くいる。支援の手が届かない子どもたちへのアプローチを行政も交え、考えていく必要がある。

◆ 週に1回のボランティア学生をもっと回数を多く派遣してほしい要望も出された。

学生にとってボランティア活動は意義ある活動で、学ぶことも多くあり、参加した学生は、充実感を感じている。しかし、一方で大学の講義やクラブ・サークル活動への参加等、時間のやりくりで苦労している。可能な限り、学校の要望に応えたい。

## 愛知県教育関係者懇談会

7月13日に愛知教育大学と愛知県教育関係者による懇談会がKKRホテル名古屋で開催された。懇談会は、本学と県内教育関係者との相互理解及び連携協力の一層の推進を図ることを目的とし、明日の本学への要望、本学の果たす役割及び相互の連携等について、忌憚のない意見をいただき、将来の愛知の教育の充実のため、更なる貢献を目指すものである。県内教育関係者16名と松田学長はじめ本学関係者20名が参加した。松田学長から愛知教育大学の現状と課題について報告があり、理事らが財務状況、入試・就職状況、教員免許状更新講習、地域貢献事業、教職大学院、共同博士課程の設置構想等について説明した。その後教員養成、相互連携の在り方について意見が交わされた。



### ■ 愛知教育大学の卒業生で、県内公立学校教員への就職率が減ってきているが、最近の様子は？

教員への就職率は、全国平均を上回り5割を超えている。就職指導にも力をいれており、卒業生の9割が受験し、合格率7割以上を目指したい。

### ■ 教育実習期間を4週間から3週間に減らすことは？

学内で検討している。3週間に減らすことによって、教育実習の成果が低下せず、学校現場の負担軽減に繋がるようにしたい。現場の声を参考にしながら検討を進め、できるだけ早く実現したい。

### ■ 教職大学院の人事交流について、学費面での配慮はなされているか。教職大学院の良さをもっとPRすべきではないか。指導体制の情報発信はどのようになっているのか？

授業料の免除は難しい。教育研究基金への寄付での対応は可能である。本学の情報公開は非常に進んでおり、HPに教職大学院の内容は掲載されているが、より一層見やすいHPに改善していきたい。

### ■ 学生の震災ボランティアは？

宮城教育大学と連携し、学生・教員・職員が、児童生徒の学習支援に、週あたり15~20名が9週間にわたり出かける予定である。

## 企業との連携

### —トヨタ系企業との連携—

愛知教育大学が地元のトヨタ系企業と社会貢献などの連携を推進するために第2回目の意見交換会を7月13日に本学の会議室で開催した。参加したトヨタ系企業は、5社（トヨタ紡織、豊田自動織機、トヨタ車体、アイシン精機、デンソー）で社会貢献部門担当者6名、本学からは理事はじめ教職員15名、クラブ・サークルの主将、部長や代表等の学生14名が参加した。

企業毎の愛教大とのコラボレーション調査の結果に基づき、学生の参加の可能性が検討され、学生も企業に対して期待する交流の在り方を積極的に発言した。体育系の学生からは、コーチング、クリニック、合同練習、練習場所の提供等の要望が多く出された。文化系の学生からは、企業人との人的交流、企業見学、合同社会貢献活動等の意見が出された。

豊田自動織機から2件、デンソーから2件、トヨタ紡織から1件、アイシン精機から1件、トヨタ車体から2件、合計8件の企業社会貢献活動への100名を超える学生の参加募集が提案された。同時に学生からの要望や意見に対して、それぞれの企業が担当部署や企業内サークル等への前向きな検討依頼を約束された。学生らは、企業の担当者から名刺をいただき、今後の連絡の窓口を確認するとともに、緊張した面持ちでクラブ、サークルの状況について交流していた。



将来教員を目指す愛教大の学部2・3年生を対象に、トヨタ紡織グローバル研修センターで公立学校教員と一緒に企業研修する募集の案内が紹介された。参加希望者4名を募集するもので、研修日時は8月23日・24日である。

トヨタ系企業5社と愛知教育大学との連携が、持続可能な具体的な活動になるために、今後もこのような意見交換会を継続していくことが重要であることが確認された。都築学生・連携担当理事は「学生が、将来教育実践力を身につけた教員になると同時に、タフな社会人に成長することを期待して、連携活動を企画段階から、学生と企業人が同じ課題について議論出来るようになってほしい」と意見交換会をまとめた。

## リソースルームから

国語教育講座 教授 中田 敏夫

皆さんは「泣いた赤鬼」のお話をご存知でしょう。村人と仲良くなりたい赤鬼のために青鬼は悪役を演じようとしています。ところが赤鬼は遠慮します。そこで、「青鬼は、しぶる赤鬼を引っ張って、村へ出かけて行った。」のですが、ここで「問い」です。「赤鬼がしぶったのは何故でしょう。」

さて、皆さん、できましたか。これは実は小学校3年向けのドリルの問題でした。現在リソースルームでは、高校と連携して外国人生徒の読解力の向上のプログラムを展開しています。先だってこの問いを高校生に解いてもらったら、正解者はいませんでした。全員「渋る」に引っかかっていました。「しぶい」は理解できても「しぶる」は類推が動きませんでした。「～る」が動詞である事まで理解できても「しぶ」と「しぶい」とが結ばなかったのでしょうか。

生活言語がどんなに達者でも、即学習言語に繋がっているわけではない事は、この「渋る」という語を考えてもらったらよく理解してもらえらると思います。

愛知県は、外国人労働者数・児童生徒数とも全国1位にあります。外国人児童生徒の日本語教育及び教科教育は地域の小中学校において最も切実で喫緊の課題であり、本学への外国人児童生徒のための学習支援の要請、期待も大きなものがあります。教員養成大学の使命として、教材開発から学生による学習支援まで総合的な取り組みを発展させることで小中学校現場を中心とした地域社会の発展に寄与したいと考えています。

今年度からリソースルームでは「外国人児童生徒を軸とした多文化共生社会をめざす教育支援の構築」事業により、小中にとどまらず、幼保から高校さらには地域住民の方々への支援も視野に入れた活動を展開しています。この学習支援が、多文化共生社会のなか地域住民全員の豊かで安定した暮らしにつながる事を希望して、取り組んでいます。



## 地域連携についてQ&A

Q. 愛知教育大学に対して種々の協力を依頼したいが、どこに相談すればいいですか？

A. 相談窓口は、愛知教育大学教育創造開発機構地域連携センター（地域連携センターと省略）です。  
電話：0566-26-2129  
ファクス：0566-95-0035  
メール：chiiki@aeu.ac.jp  
ホームページ：http://www.aichi-edu.ac.jp

Q. どんな相談内容が、愛知教育大学には寄せられていますか？

A. 自治体や地域住民、企業、NPO等の研修会・講習会・シンポジウム等で、適任の講師を紹介してほしい。  
外国人児童生徒の学習支援や教材について教えてほしい。  
高校生のための出張講義・模擬授業を実施してほしい。  
地域住民と連携して、地域振興プランづくりや文化活動、芸術創造活動はできるか。  
教員養成系大学の特色を生かした子どもの活動への支援をしてほしい。

### Information 1

#### 愛知教育大学保護者懇談会

【名古屋会場】

開催日時：9月18日(日) 14:00～16:40

開催場所：ウィンクあいち 大ホール（名古屋駅前）

【刈谷会場】

開催日時：10月23日(日) 13:00～17:00

開催場所：愛知教育大学 本部棟3階第1会議室、第1共通棟ほか

内 容：愛知教育大学の現状報告、質疑応答（両会場共通）、グループ相談（名古屋会場）、個別相談（刈谷会場）

※内容は変更になることがあります。

### Information 2

#### 愛知教育大学地域連携フォーラム

開催日時：11月12日(土) 13:00～16:30

開催場所：刈谷市総合文化センター（刈谷駅南口）

テ ー マ：大学が地域の文化の発展に果たす役割

— 言語・コミュニケーション交流の活性化に向けて —

講師予定：小松 弥生 / 文化庁 文化部長

太田 武司 / 刈谷市教育委員会 教育長

川合 基弘 / 知立市教育委員会 教育長

中田 敏夫 / 愛知教育大学 教授

高橋美由紀 / 愛知教育大学 教授